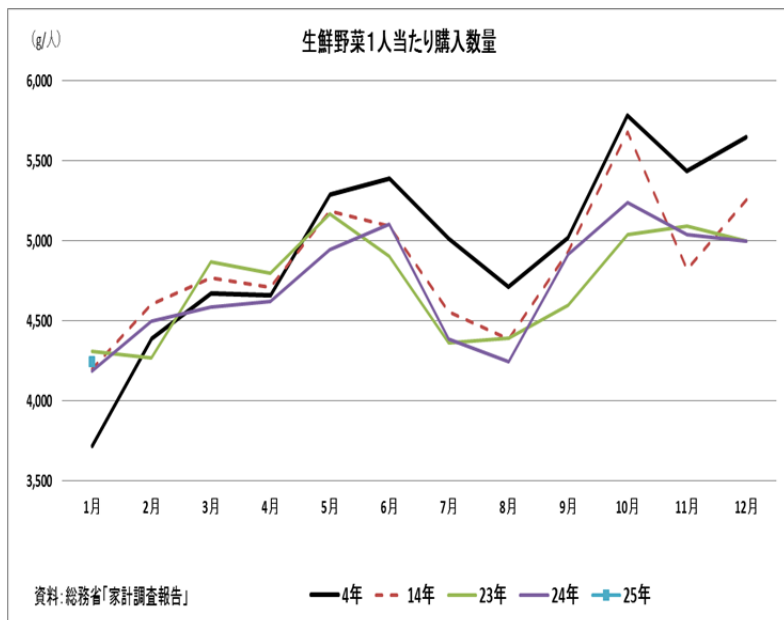


## 野菜の需給・価格をめぐる状況

## 1 生鮮野菜の購入数量の推移

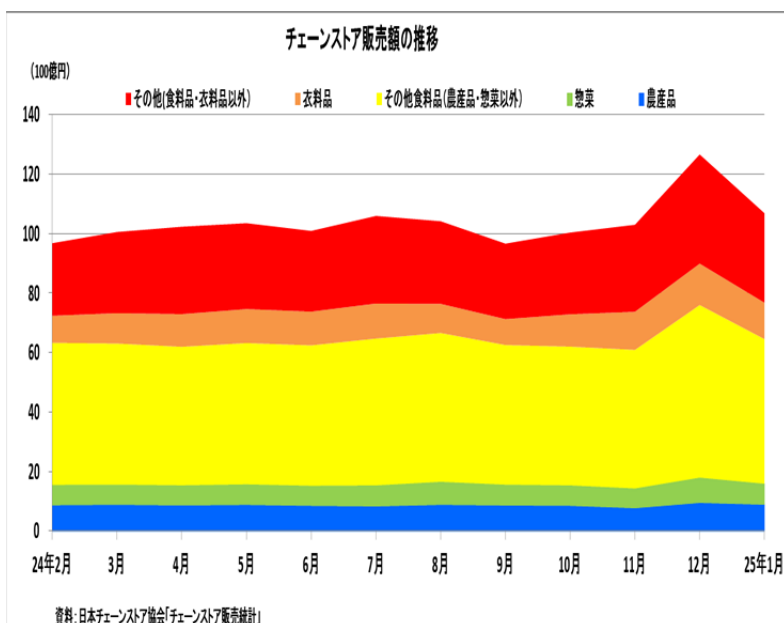


生鮮野菜1人当たりの購入数量は、平成24年は、平成23年12月からの低温と曇天の影響により総体的に高値となったことから、2月、6月、9月及び10月を除いて前年を下回った。3～5月は、低温と少雨の影響で高く、購入数量が少なかったことから、前年を下回った。また、8月は、猛暑により需要が減少し、前年を下回った。一方、9月以降は、天候に恵まれたこと等により生育が順調になり、総体的に安値となったことから、前年を上回った。

平成25年は、平成24年12月からの低温による生育停滞等により、出荷が伸びず、小売価格が上昇したことから、低温、少雨等により高かった前年並みとなった。

## 2 チェーンストアの販売動向

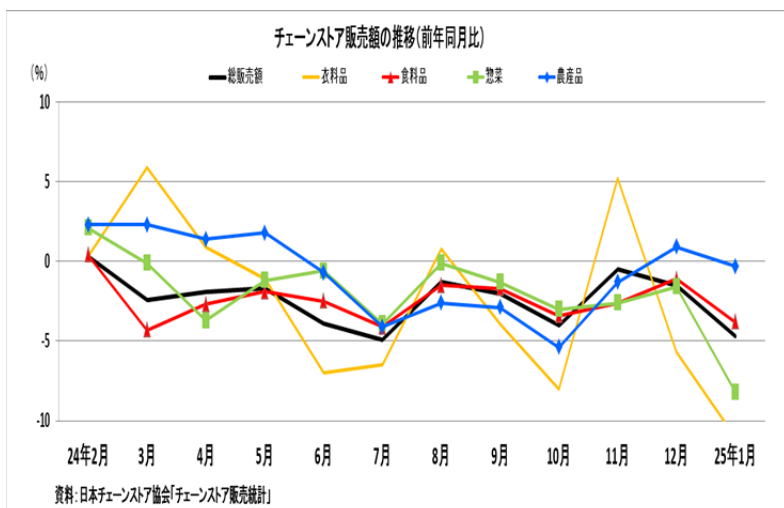
### (1) 販売額の推移



チェーンストアの総販売額の最低額は、平成24年9月の9,665億円、最高額は、12月の1兆2,662億円であった。

そのうち、惣菜の最低額は、11月の651億円、最高額は、12月の836億円であった。また、農産品の最低額は、11月の782億円、最高額は、12月の962億円であった。惣菜、農産品それぞれ、その他食料品に比べて月ごとの大きな変動がなく推移した。

### (2) 販売額の前年同月比

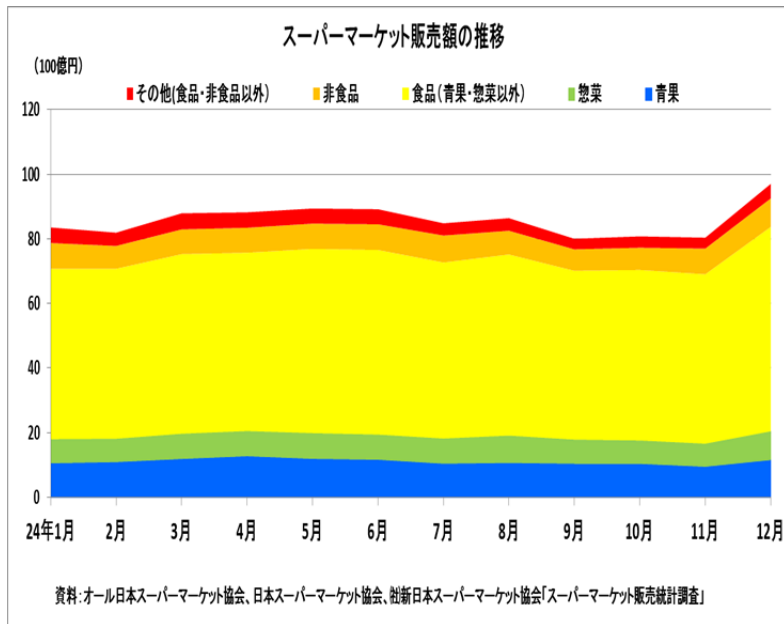


チェーンストアの総販売額は、平成24年2月を除き、一年を通して前年を下回って推移した。

そのうち、惣菜は、概ね前年並みで推移したが、平成25年1月は、関東地域でも降雪が多かったことから前年を大きく下回った。農産品は、平成24年2月以降、低温等の影響により、小売価格が上昇したが、6～11月は、野菜の相場安等により、前年を下回って推移した。

### 3 スーパーマーケットの販売動向

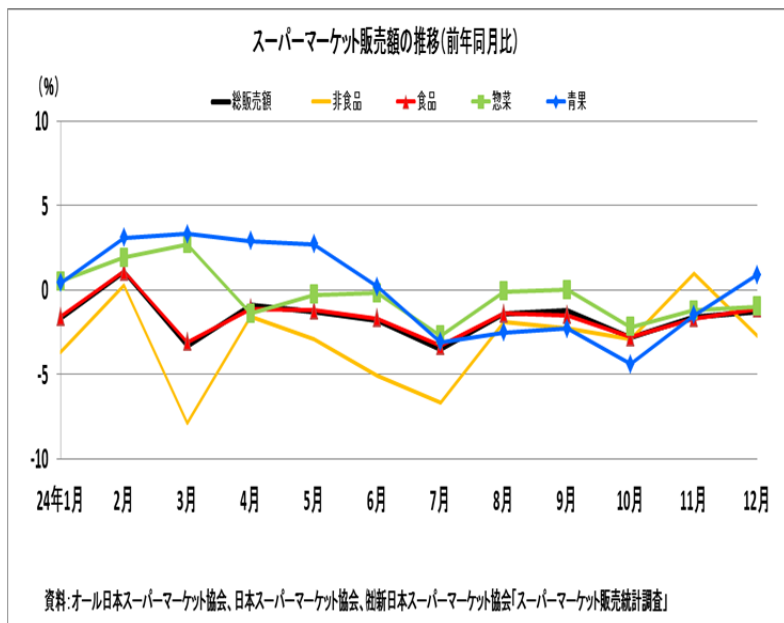
#### (1) 販売額の推移



スーパーマーケットの総販売額の最低額は、平成24年9月の8,001億円、最高額は、12月の9,700億円であった。

惣菜の最低額は、11月の702億円、最高額は、12月の876億円であった。また、青果の最低額は、11月の960億円、最高額は、4月の1,286億円であった。

#### (2) 販売額の前年同月比



スーパーマーケットの総販売額は、平成24年1月以降、チェーンストアと同様、2月を除き、前年を下回って推移した。

惣菜は、2月及び3月を除き、概ね前年並み又は前年を下回って推移した。青果は、1月以降は、低温等の影響により小売価格が上昇したため、前年を上回って推移した。7～11月は、チェーンストア同様、野菜の相場安等により、前年を下回った。

#### 4 レタスとキャベツの価格動向

～野菜の需給・価格動向レポート(平成 25 年 1 月 21 日版)より～

レタスは、11月上旬から少なめの入荷量となり、価格が平年及び前年を上回って推移し、12月中旬以降、価格が大きく上昇している。入荷量が減少したのは、11月以降、平年より早い寒さが訪れたことから生育が停滞し、供給量が少なくなったことによる。

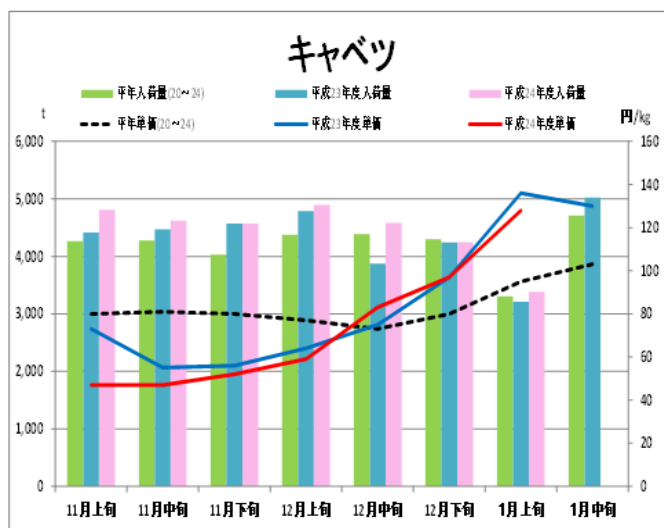
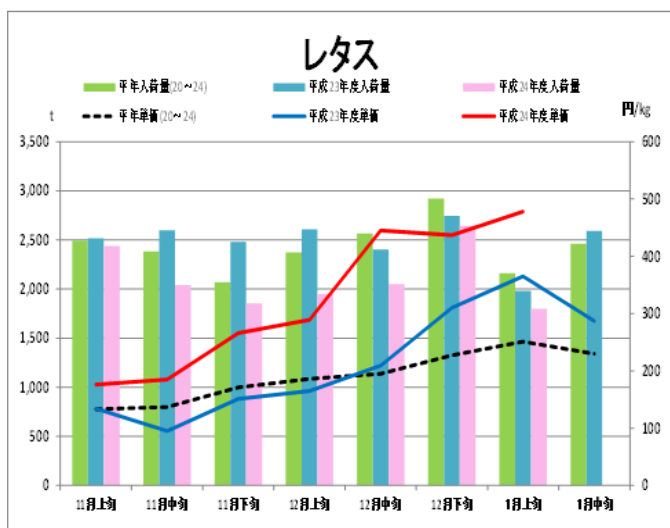
一方、キャベツの価格は、11月上旬から12月上旬までは、平年及び前年を下回って推移していたが、12月中旬以降、入荷量がおおむね平年及び前年を上回っていたにもかかわらず、価格は平年を上回って推移している。

これは、レタスの入荷が少ない中で、加工・業務用を中心にレタスからキャベツへの代替需要があったことが大きく影響したものと思われる。

過去のレタスとキャベツの入荷量と価格の関係をみると、レタスの入荷量が少なく、価格が高くなると、キャベツの入荷量は減少しなくても、価格が高くなっている。

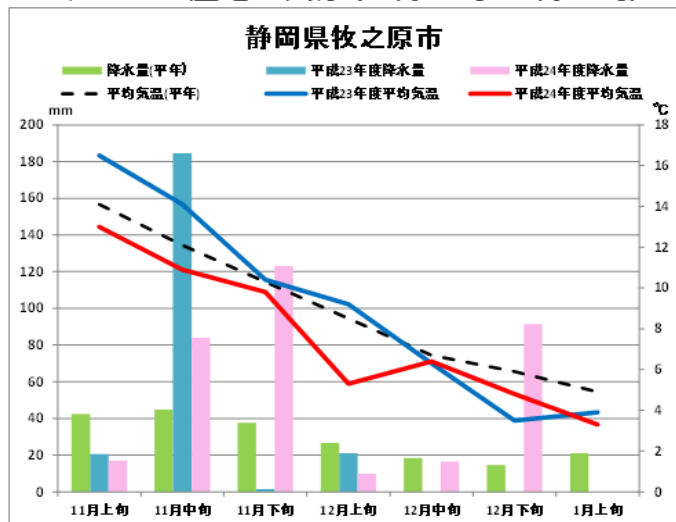
今後、キャベツの主産地の愛知産の出荷は比較的順調であると見込まれるものの、レタスが主産地の静岡産等が低温の影響で、今後も少なめの出荷が続くと見込まれることから、キャベツの価格はしばらく高めに推移するものと思われる。

#### レタスとキャベツの入荷量と卸売価格の推移(11月上旬～1月中旬、東京都中央卸売市場)



資料：青果物情報センター

#### レタスの主産地の気象(11月上旬～1月上旬)



資料：ベジ探(原資料)気象庁「気象統計情報」

#### レタスとキャベツの旬別入荷量と単価の平年比の比較(東京都中央卸売市場)

時期	品目	入荷量平年比	単価平年比
平成17年冬 (12月下旬)	レタス	86%	157%
	キャベツ	100%	179%
平成24年冬 (12月中旬)	レタス	84%	187%
	キャベツ	103%	109%
平成24年冬 (12月下旬)	レタス	94%	158%
	キャベツ	100%	113%
平成25年冬 (1月上旬)	レタス	83%	190%
	キャベツ	103%	135%

注:平成15年以降で、冬期のレタスの単価が高く(150%以上)、キャベツの入荷量が平年並み以上の時期を抽出した。

資料：青果物情報センター

## 5 気温とレタスの価格の関係

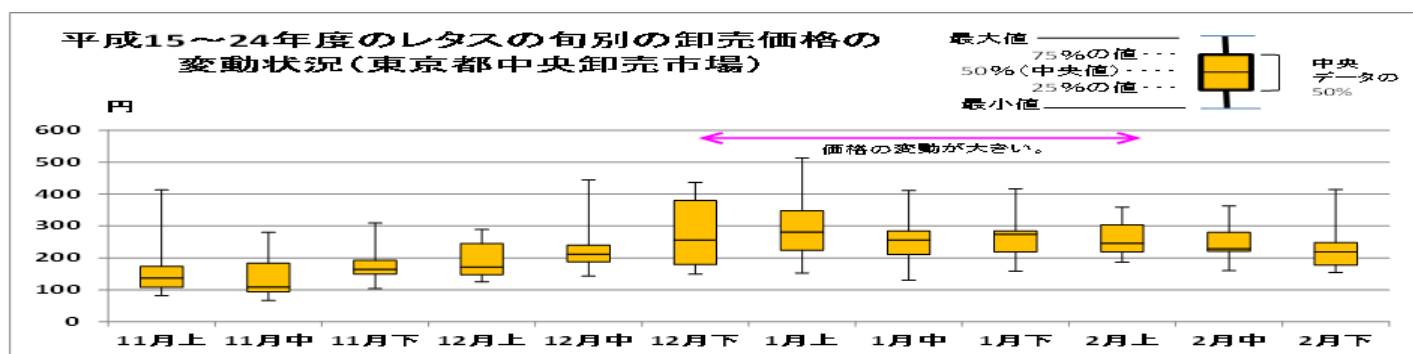
～野菜の需給・価格動向レポート(平成 25 年 2 月 4 日版)より～

この冬のレタスの価格は、平年を大幅に上回って推移している。1月のレタスの価格は、波乱含みの年が多いと指摘する実需者も多い。実際、過去10年間のレタスの旬別の卸売価格の状況を見ると、12月下旬から2月上旬にかけて、その前後の旬に比べて価格の変動が大きくなっている。

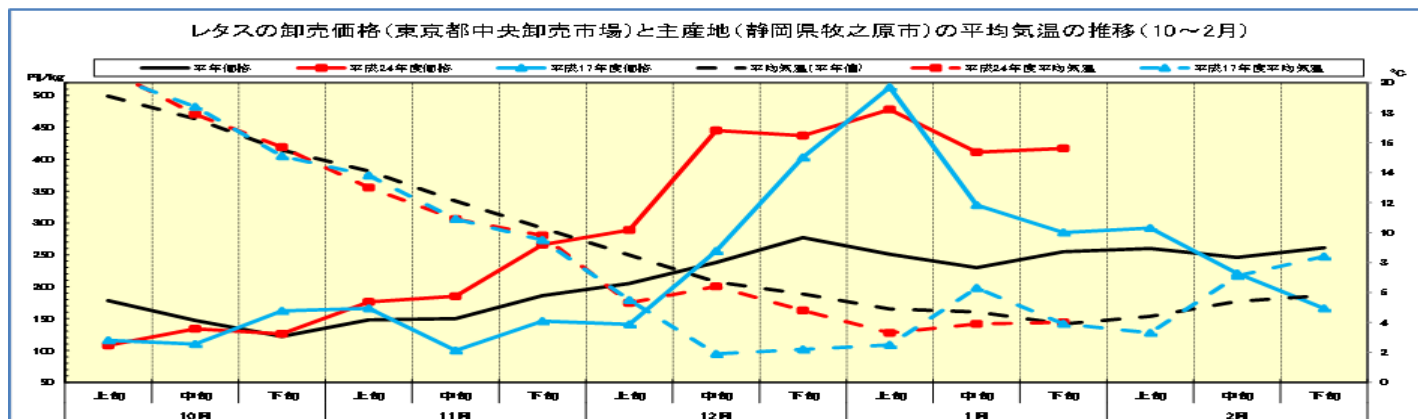
1月に出荷されるレタスは、10月頃に播種・定植され、11月から12月にかけてが重要な生育期間となる。冬場のレタスの生育には、特に気温の影響が大きいといわれているが、今年と似た価格変動を示した平成17年度の主産地の気温の変化を見ると、今年と同様に、11月から12月にかけて、平年をかなり下回っている。

そこで、11月から12月までの積算温度と1月の卸売価格について相関をとったところ、高い相関が見られ、この期間の積算温度が低いほど、1月の価格が高くなる傾向がある。

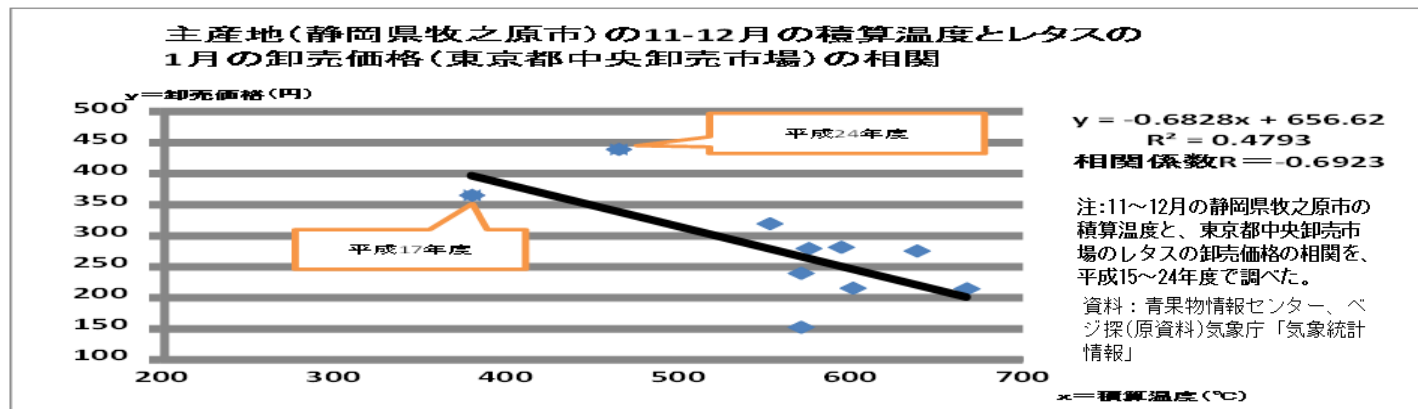
なお、平成17年度は、1月中旬以降、気温が平年並みとなったことから、価格は1月上旬をピークに落ち着きを取り戻した。気象庁の3か月予報によると、今年の2月の気温は、平年並みと見込まれていることから、価格は、引き続き平年を上回って推移するものの徐々に落ち着いてくる見込み。



注:2月上旬から2月下旬までの価格には、平成24年度の価格を含まない。  
資料：青果物情報センター



資料：青果物情報センター、ベジ探(原資料)気象庁「気象統計情報」



$$y = -0.6828x + 656.62$$

$$R^2 = 0.4793$$

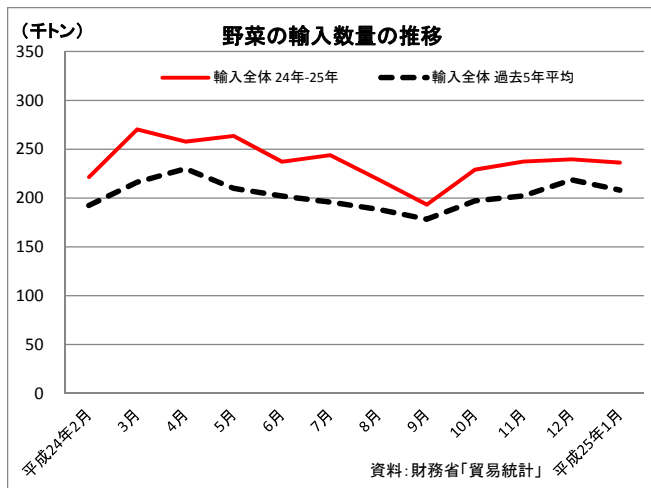
相関係数R = -0.6923

注:11～12月の静岡県牧之原市の積算温度と、東京都中央卸売市場のレタスの卸売価格の相関を、平成15～24年度で調べた。

資料：青果物情報センター、ベジ探(原資料)気象庁「気象統計情報」

## 6 野菜の輸入動向

### (1) 野菜全体の輸入数量



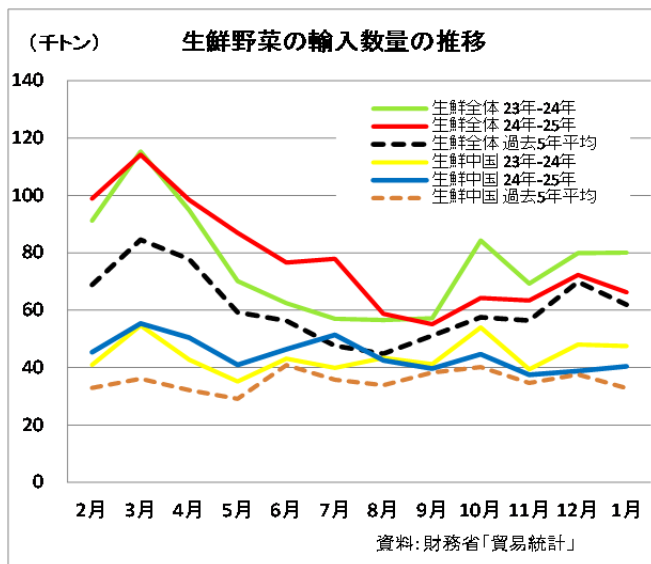
野菜の輸入数量は、全期間を通じて過去5年平均を上回った。

昨年(平成24年)の冬は、低温や干ばつ等による国内産の供給不足により、葉茎菜類を中心に輸入野菜の需要が高まった。

平成24年3月以降は、250千トンを超える輸入数量となっていたが、6月に入ると、国内産の生育が回復し、価格も全体的に安くなったことから、生鮮野菜の輸入が減少傾向となり、9月は200千トンを下回った。

平成24年10月に増加に転じると、11月以降は、冷凍野菜の輸入が高水準だったことから、平成17年に次ぐ230千トンを超える輸入数量となった。

### (2) 生鮮野菜の輸入数量

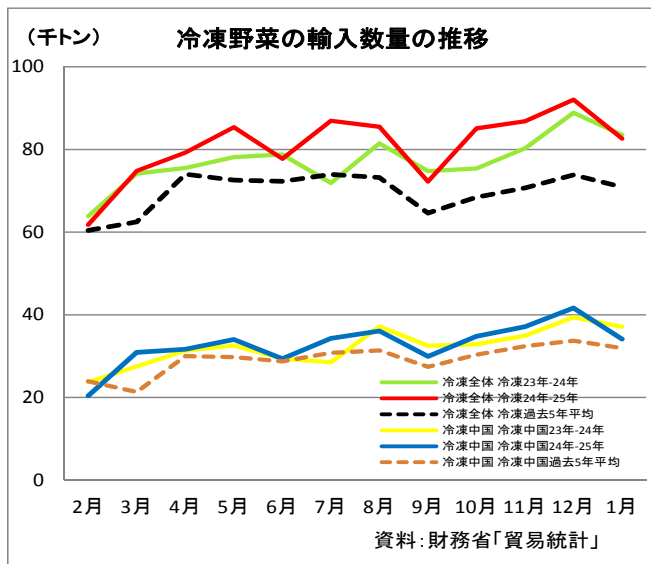


生鮮野菜の輸入数量は、全期間を通じて過去5年平均を上回った。

昨年(平成24年)の冬は、低温や干ばつ等によりキャベツや結球レタスを中心とした国産葉茎菜類の出回りが少なくなったことから、過去5年平均を大きく上回った。また、府県産のたまねぎの不作から、平成24年5月以降も前年を大幅に上回って推移したが、8月以降、国内産の生育が回復したことに加えて、猛暑の影響による国産価格の低落から、前年並みとなった。9月以降は、前年の輸入数量が多かったこともあり、前年を下回って推移した。

中国産の輸入数量は、全期間を通じて過去5年平均を上回り、特に2月から5月までは、過去5年平均を大幅に上回った。9月以降は、北海道産が豊作であったたまねぎの減少や中国産野菜の値上がりの影響もあり、前年を下回った。

### (3) 冷凍野菜の輸入数量



冷凍野菜の輸入数量は、フライド用のばれいしょの輸入が増えたこと等から、全期間を通じて過去5年平均を上回った。

平成24年2月は、前年と同じ水準だったが、3月以降は、5年平均を大幅に上回り推移した。

中国産の輸入数量は、2月を除き過去5年平均を上回った。これは、生鮮野菜と同様に、廉価な中国産への需要が高いことによるものと思われる。

(4) 主要品目の輸入数量(平成24年)

生鮮野菜 (トン)	
①たまねぎ	342,293
②かぼちゃ	125,024
③にんじん・かぶ	82,951
④ねぎ	52,163
⑤ブロッコリー	49,735

冷凍野菜(トン)	
①ばれいしょ	385,554
②えだまめ	70,856
③スイートコーン	48,607
④さといも	39,429
⑤ブロッコリー	36,059

資料:財務省「貿易統計」

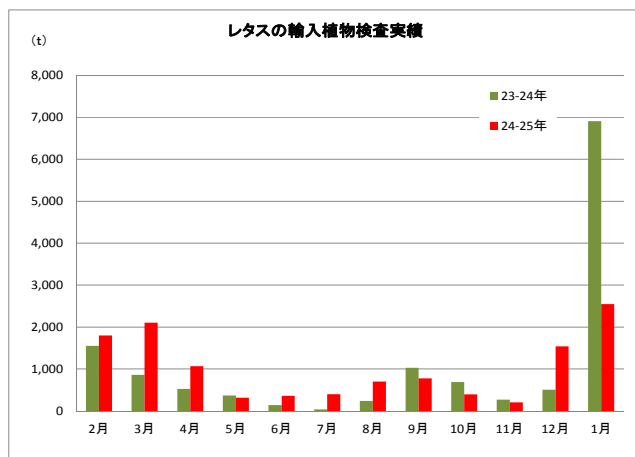
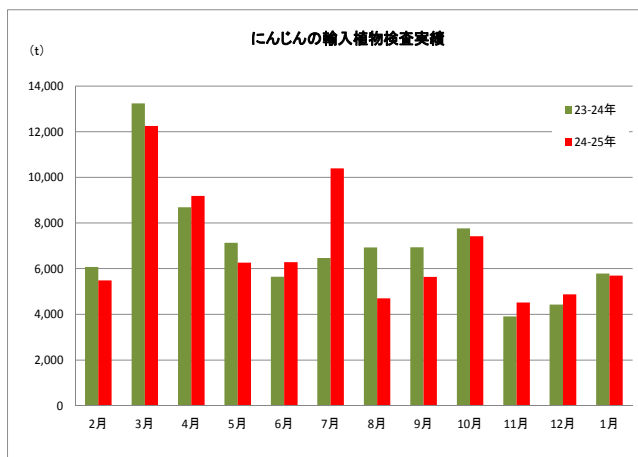
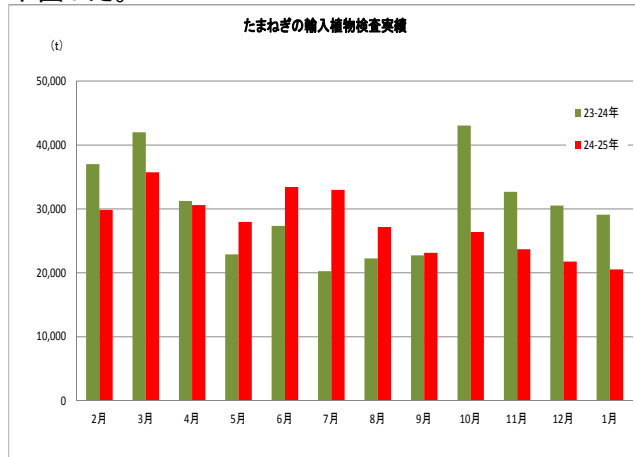
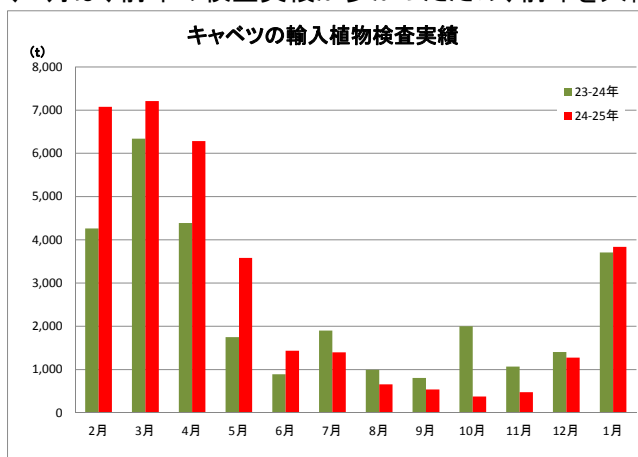
(5) 主要品目の植物防疫検査実績

キャベツの輸入検査実績は、低温等による国内産の供給不足の影響を受け、平成24年2月及び3月は増加した。4月以降、減少に転じたものの、6月までは前年を大きく上回る水準となった。7月以降は、国内産の豊作により前年を下回って推移した。平成25年1月は、低温等による国内産の供給不足の影響を受け、前年を上回った。

たまねぎは、平成24年4月までは前年を下回って推移した。5月以降は、府県産の供給不足の影響を受け、前年を上回り推移したが、北海道産の出荷が本格化する8月からは減少傾向となっており、10月以降は前年を大幅に下回って推移した。

にんじんは、概ね前年に近い水準で推移したが、平成24年7月は、北海道産が残雪による定植作業の遅れの影響から出荷が少なくなったこと等により、前年を大幅に上回った。8月以降は、前年を下回り推移したが、11月及び12月は、低温等による国内産の供給不足の影響を受け、前年を上回った。

レタスは、昨年の冬に低温等による国内産の供給不足の影響を受けたため、平成24年2～4月は前年を上回ったが、1月は、前年の検査実績が多かったため、前年を大幅に下回った。



※品目によって縦軸の数量の数値に大小があるのでご注意ください。

資料：農畜産業振興機構「ベジ探」

原資料：農林水産省「植物検疫統計」